

滋賀・虫生遺跡

むしゅう

1 所在地 滋賀県野洲郡中主町大字虫生

2 調査期間 一九八九年(平一)八月～十二月

3 発掘機関 中主町教育委員会

4 調査担当者 徳網克己・辻 広志

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

虫生遺跡は、琵琶湖の東岸、野洲川右岸下流域の沖積地にある、南北方向の微高地の北側に位置する。



(近江八幡)

調査は、一九八七年より継続的に行っている、県道野洲中主線の敷設工事に伴うもので、微高地上を横断するかたちで実施した。調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代前期と奈良時代～平安時代の集落跡や旧河道、鎌倉時

代の水田跡や畠跡などを検出した。

木簡は、微高地上の最も高所にある集落跡から東へやや下った、水田跡であったことを示す土壌層下の浅い溝(幅二〇cm、深さ一五cm)より発見された。この溝の中や付近からは、少量ではあるが奈良時代の須恵器甕片や坏片が出土しており、この溝の南側にある現在の虫生集落の微高地上にこの時期の遺構の存在が予想される。また、この溝は道路幅の調査であるため正確ではないが、現況の条里型地割の方向にほぼ等しいものの、その位置が異なっており、木簡の年代と共に興味深い。

8 木簡の积文・内容

(1)

・ 神亀六年正月卅日

(267)×30×8 019

木簡は、長方形材の上端を欠く。墨書は、表裏に見られるが、裏面と考えられる「神亀六年」(七二九)は明瞭である。(辻 広志)

